

認知症とともに生きる

認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けるために

●認知症ってどんな病気？

認知症は、誰もがかかる可能性のある脳の病気です。国の推計では、2025年には認知症患者は全国で700万人に達し、65歳以上の5人に1人を占めるといわれています。認知症になると、記憶が抜け落ちたり、時間や場所がわからなくなったりする記憶障がいが起こります。また、状態によって、はいかいなどの症状が出ることもあります。

●「もの忘れ」とは違うの？

高齢者特有の加齢による「もの忘れ」と違うのは、認知症の記憶障がいは自覚症状が乏しいという点です。「忘れた」のではなく「記憶がない」ため、食事をしたのに食べていないと思うなどといった、その「行

為自体を否定する」ことが多くなります。

○加齢による「もの忘れ」

記憶の帯はつながっているが、その体験の一部を忘れている状態

○認知症による「記憶障がい」

記憶全体が抜け落ち、体験そのものを忘れている状態

●皆さんの力が必要です

認知症の人とその家族は、大きな不安を抱えながら生活しています。認知症について正しく理解し、地域で温かく見守ることが大切です。認知症の人やその家族が困っていたら、進んで声をかけてみましょう。認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けるために、地域の皆さんの力が必要です。

◆市が行う認知症支援

○はいかい高齢者等 SOS ネットワーク 事前登録サービス

はいかひの心配がある場合に、事前に名前・住所・連絡先などを登録し、早急に捜索を始めるためのサービスです。

○メール配信サービス

行方不明者情報をメールで届けます。登録方法 / izunokuni-entry@tokyoanpi.sbs-infosys.com に空メールを送信し、案内に沿って登録します。



登録はこちら

保健福祉・こども・子育て相談センター
0558(76)8010
◆皆さんができる認知症支援

○認知症サポーター養成講座

認知症の正しい知識や接し方を理解し、地域で見守る方法を学びます。少人数のグループから、地域の集まりや職場内研修などに出向きます。

○認知症カフェ

誰もが気軽に集い、ゆっくり会話を楽しんだり、過ごたりする場を毎月市内7カ所で開催。認知症の専門家などに相談もできます。



認知症カフェ一覧

- ① いずのんカフェ (葦山福祉・保健センター)
 - ② 和みカフェ湯の家(長岡寮湯の家 集会所)
 - ③ ぶなカフェ (葦山・ぶなの森)
 - ④ ながおかふえ (ウエルシア伊豆長岡店)
 - ⑤ ちよつくらカフェ (プレーゲおおひと)
 - ⑥ カフェいちご (いちごの里)
 - ⑦ カフェ 行くべ (高齢者温泉交流館)
- ※開催日時など、詳しくは問い合わせ。

地域の「見守りネットワーク」が拡大中です！

はいかい者探索事業

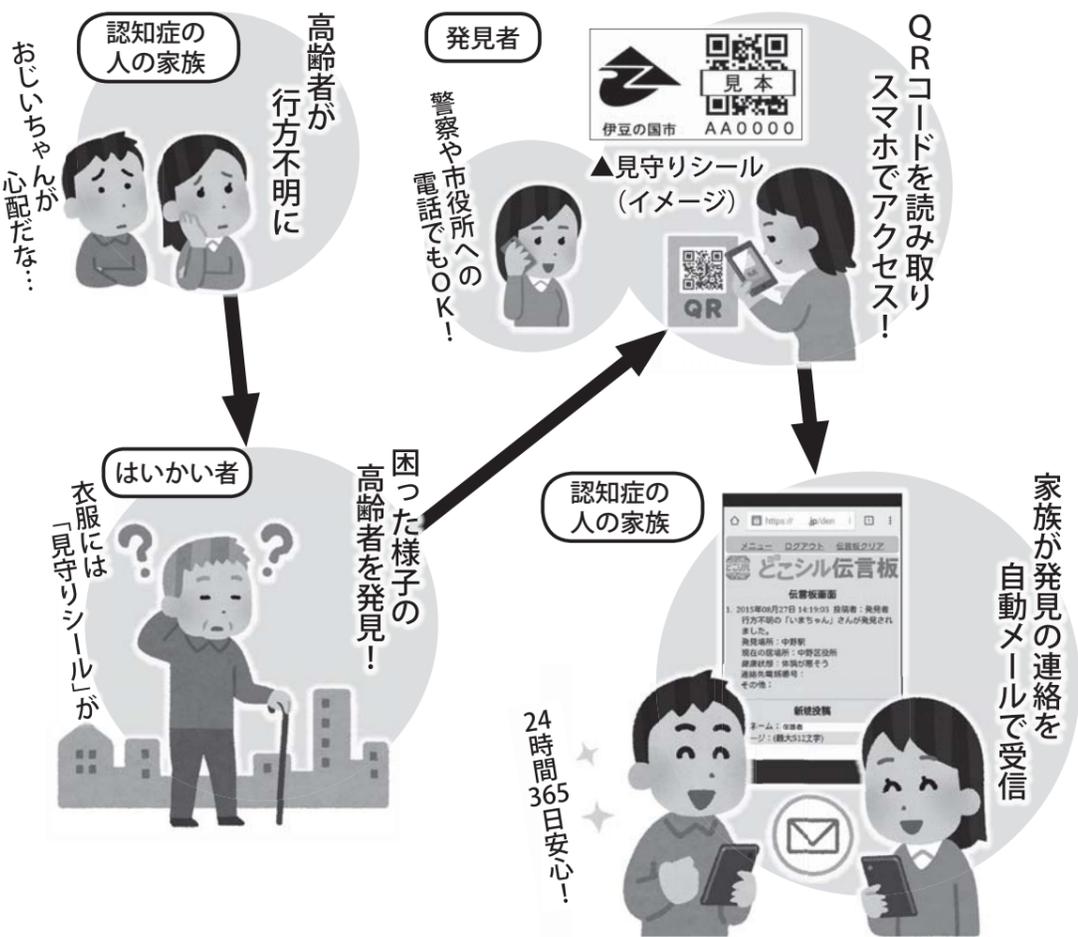
◆スマホでアクセス！

どこシル伝言板

市では、認知症の人や家族が安心して暮らせるまちづくりを目指して、行方不明時の早期発見・事故防止のため、「見守りシール」による「はいかい者探索事業」を行っています。

○地域の皆さんへお願い

衣服や携行品に「見守りシール」を貼った人が一人で歩いていたら、ゆつくりと「どうしましたか。お手伝いすることはありますか」と声をかけてください。そして、可能であればスマートフォンなどで「見守りシール」を読み取り、発見情報を入力してご家族へ連絡してください。読み取り方法がわからない場合は、市役所や警察に連絡してください。



○見守りシールを利用するには？

本人または家族が、長寿福祉課窓口で申請する必要があります。見守りシールを利用することで、はいかいなどで行方不明となったときに早期の発見・対応ができるようになります。ぜひご利用ください。

配布物/QRコード付き見守りシール40枚(アイロンで簡単貼り付け)対象/おおむね65歳以上の認知症高齢者または在宅の若年性認知症で、はいかいするおそれのある人必要なもの/申請者の印鑑、発見通知を受けるメールアドレス(3件まで)負担金/1セット380円

皆さん一人ひとりの力が必要です。地域の「見守りネットワーク」にご協力をお願いします。